

めぐみイエス・キリスト教会

2025年4月6日(日)第一主日礼拝

午前10時より

週報「通算第753号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌355「主と共に歩む」 p. 568

【交読文】 No.53 ルカの福音書22章(抜粋) p. 921

【賛美Ⅱ】 新聖歌101「イエスよ十字架に」 p. 141

【使徒信条・主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「主を誉め讃え続けよ」

【聖書朗読】 ルカの福音書9章11節～17節 (p. 131上段)

【礼拝説教】 《五千人の給食》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書9章11節～17節)

9:11 ところが、それを知った群衆がイエスの後について来た。イエスは彼らを喜んで迎え、神の国のことを話し、また、癒やしを必要とする人たちを治された。

9:12 日が傾き始めたので、十二人はみもとに来て言った。「群衆を解散させてください。そうすれば、彼らは周りの村や里に行き、宿をとり、何か食べることができるでしょう。私たちは、このような寂しい所にいるのですから。」

9:13 すると、イエスは彼らに言われた。「あなたがたが、あの人たちに食べる物をあげなさい。」彼らは言った。「私たちには五つのパンと二匹の魚しかありません。私たちが出かけて行って、この民全員のために食べ物を買うのでしょうか。」

9:14 というのは、男だけでおよそ五千人もいたからである。しかし、イエスは弟子たちに言われた。「人々を、五十人ぐらいつ組にして座らせなさい。」

9:15 弟子たちはそのとおりにして、全員を座らせた。

9:16 そこでイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げ、それらのゆえに神をほめたたえてそれを裂き、群衆に配るように弟子たちにお与えになった。

9:17 人々はみな、食べて満腹した。そして余ったパン切れを集めると、十二かごあった。

●ポイント1. ヨハネの福音書における平行記事から

※ヨハネの福音書6章5節～9節「三福音書と異なる記述」(新約p.188)

6:5 イエスは目を上げて、大勢の群衆がご自分の方に来るのを見て、ピリポに言われた。「どこからパンを買って来て、この人たちに食べさせようか。」

6:6 イエスがこう言われたのは、ピリポを試すためであり、ご自分が何をしようとしているのかを、知っておられた。

6:7 ピリポはイエスに答えた。「一人ひとりが少しずつ取るにしても、二百デナリのパンでは足りません。」

6:8 弟子の一人、シモン・ペテロの兄弟アンデレがイエスに言った。

6:9 「ここに、大麦のパン五つと、魚二匹を持っている少年がいます。でも、こんなに大勢の人々では、それが何になるでしょう。」

●ポイント2. エリヤに示された神様の奇跡とは？

※第 I 列王記17章8節～16節「シドンのやもめ」 (旧約p.631下段)

●ポイント3. 「山上の垂訓」における主イエス様の約束とは？

※マタイの福音書6章33節「天の父は知っておられる」 (新約p.11)

6:33 「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」

◎先週のメッセージ【弟子たちの帰還】

《主イエスは、十二弟子たちを、ガリラヤ地方のそれぞれの町々や村々に遣わされました。彼らの働きによって、ガリラヤ地方に大きなリバイバルが起こされたと伝えられています。

さて、あらかじめ決められていた日と場所に、十二弟子たちは無事に戻って来て、自分たちがした事をすべて報告しました。

彼らを通して、多くの人々が癒され、そして多くの悪霊が出て行ったことを、彼らは興奮して証ししたに違いありません。

そして旅立つ前に主イエスは、「お金また袋や予備の下着と履き物、そして杖を持つ必要はありません。」と言われました。

これは、当時の旅に必要な最小限の持ち物でした。しかし、その言葉に従った彼らには、その必要がすべて与えられたのです。

弟子たちは、「まさしく主が言われた通りだった」と、口を揃えて証ししたと思われれます。今回の十二弟子の派遣は、弟子訓練の初めであり、主イエスが福音の為に働く者たちに、衣食住の責任を持つことを、体験を通して、彼らに教えられたのです。

さて、主イエスは帰還して来た弟子たちをベツサイダに連れて行きます。ベツサイダとは、「漁師の家」という意味で、アンデレ、ペテロ、ピリポの故郷にあたるガリラヤの町のことです。

カペナウムのシモン・ペテロの家には、大勢の群衆が、すでに待ち構えていましたし、また、帰還した弟子たちに休息を与える為にも、主イエスは、彼らを少し離れたベツサイダに連れて行かれたのです。そして、ベツサイダの近くの場合において、「五千人の給食」の奇跡を行なわれるのです。それは、弟子たちに、さらなる衣食住の保証の約束を示されることになります。》

◎お知らせ

※次回は2025年4月13日午前10時より、行ないます。受難週に入りますので、十字架のメッセージとなります。そして、4月20日の第三主日が今年のイースターとなります。その日は、愛餐会は行ないません。